



インストール ガイド

McAfee Change Control および McAfee
Application Control 7.0.0

著作権

Copyright © 2016 McAfee, Inc., 2821 Mission College Boulevard, Santa Clara, CA 95054, 1.888.847.8766, www.intelsecurity.com

商標

Intel および Intel のロゴは、米国法人 Intel Corporation または米国またはその他の国の関係会社における登録商標です。McAfee および McAfee のロゴ、McAfee Active Protection、McAfee DeepSAFE、ePolicy Orchestrator、McAfee ePO、McAfee EMM、McAfee Evader、Foundscore、Foundstone、Global Threat Intelligence、マカフィー リブセーフ、Policy Lab、McAfee QuickClean、Safe Eyes、McAfee SECURE、McAfee Shredder、SiteAdvisor、McAfee Stinger、McAfee TechMaster、McAfee Total Protection、TrustedSource、VirusScan は、米国法人 McAfee, Inc. または米国またはその他の国の関係会社における商標登録または商標です。その他すべての登録商標および商標はそれぞれの所有者に帰属します。

ライセンス情報

ライセンス条項

お客様へ:お客様がお買い求めになられたライセンスに従い、該当する契約書(許諾されたソフトウェアの使用につき一般条項を定めるものです、以下「本契約」といいます)をよくお読みください。お買い求めになられたライセンスの種類がわからない場合は、販売およびライセンス関連部署にご連絡いただくか、製品パッケージに付随する注文書、または別途送付された注文書(パンフレット、製品 CD またはソフトウェア パッケージをダウンロードした Web サイト上のファイル)をご確認ください。本契約の規定に同意されない場合は、製品をインストールしないでください。この場合、弊社またはご購入元に速やかにご返信いただければ、所定の条件を満たすことによりご購入額全額をお返しいたします。

目次

| | |
|---------------------------------------|-----------|
| まえがき | 5 |
| このガイドについて | 5 |
| 対象読者 | 5 |
| 表記法則 | 5 |
| 製品マニュアルの検索 | 6 |
| 1 ソフトウェアのインストール | 7 |
| 前提条件 | 7 |
| インストーラーの取得 | 8 |
| 対話モードでインストールする | 9 |
| Windows プラットフォームにインストールする | 9 |
| AIX プラットフォームにインストールする | 10 |
| サイレント モードでインストールする | 11 |
| Windows プラットフォームにインストールする | 12 |
| Linux プラットフォームにインストールする | 12 |
| AIX プラットフォームにインストールする | 14 |
| インストールを確認する | 14 |
| Windows プラットフォームで確認する | 14 |
| Linux と AIX プラットフォームで確認する | 15 |
| 2 ソフトウェアのアップグレード | 17 |
| 操作を始める前に | 17 |
| 対話モードでアップグレードする | 18 |
| Windows プラットフォームでアップグレードする | 18 |
| AIX プラットフォームでアップグレードする | 19 |
| サイレント モードでアップグレードする | 20 |
| Windows プラットフォームでアップグレードする | 20 |
| Linux プラットフォームでアップグレードする | 21 |
| AIX プラットフォームでアップグレードする | 22 |
| アップグレードの確認 | 24 |
| 3 ソフトウェアのアンインストール | 25 |
| 対話モードでアンインストールする | 25 |
| Windows プラットフォームでアンインストールする | 25 |
| AIX プラットフォームでアンインストールする | 26 |
| サイレント モードでアンインストールする | 26 |
| Windows プラットフォームでアンインストールする | 27 |
| Linux プラットフォームでアンインストールする | 27 |
| AIX プラットフォームでアンインストールする | 27 |
| A 非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する | 29 |

| | | |
|----------|--------|-----------|
| B | よくある質問 | 33 |
| | 索引 | 39 |

まえがき

このガイドでは、McAfee 製品の操作に必要な情報を提供します。

目次

- ▶ このガイドについて
- ▶ 製品マニュアルの検索

このガイドについて

ここでは、このガイドの対象読者、表記規則とアイコン、構成について説明します。

対象読者

McAfee では、対象読者を限定してマニュアルを作成しています。

このガイドの情報は、主に以下の読者を対象としています。

- **管理者** – 企業のセキュリティ プログラムを実装し、施行する担当者。

表記法則

このガイドでは、以下の表記規則とアイコンを使用しています。

| | |
|---|--|
| 『マニュアルのタイトル』、用語 または強調 | マニュアル、章またはトピックのタイトル、新しい用語、語句の強調を表します。 |
| 太字 | 特に強調するテキスト |
| ユーザーの入力、コード、メッセージ | コマンド、ユーザーが入力するテキスト、画面に表示されるメッセージを表します。 |
| [インターフェースのテキスト] | オプション、メニュー、ボタン、ダイアログ ボックスなど、製品のインターフェースのテキストを表します。 |
| ハイパーテキスト (青色) | トピックまたは外部の Web サイトへのリンクを表します。 |
|  | 注: 追加情報 (オプションにアクセスする別の方法など) を表します。 |
|  | ヒント: ヒントや推奨事項を表します。 |
|  | 重要/注意: コンピューター システム、ソフトウェア、ネットワーク、ビジネス、データの保護に役立つ情報を表します。 |
|  | 警告: ハードウェア製品を使用する場合に、身体的危害を回避するための重要な注意事項を表します。 |

製品マニュアルの検索

[ServicePortal] では、リリースされた製品の情報（製品マニュアル、技術情報など）を入手できます。

タスク

- 1 [ServicePortal] (<https://support.mcafee.com>) に移動して、[Knowledge Center] タブをクリックします。
- 2 [Knowledge Base] ペインの [コンテンツのソース] で [製品マニュアル] をクリックします。
- 3 製品とバージョンを選択して [検索] をクリックします。マニュアルの一覧が表示されます。

1

ソフトウェアのインストール

Windows、Linux、AIX プラットフォームに Change Control または Application Control をスタンドアロン構成でインストールします。

すべての対応プラットフォームで、このソフトウェアは物理マシンと仮想マシン (VM) の両方で動作します。ソフトウェアは、次のいずれかのモードでインストールできます。

- **対話モード** – インストール ウィザードに従って、ソフトウェアの設定とインストールに必要な手順を実行できます。
- **サイレントモード** – 非対話モードでインストールされます。進行状況バーもメッセージも表示されません。中規模または大規模環境での配備に推奨モードです。

目次

- ▶ [前提条件](#)
- ▶ [インストーラーの取得](#)
- ▶ [対話モードでインストールする](#)
- ▶ [サイレントモードでインストールする](#)
- ▶ [インストールを確認する](#)

前提条件

Change Control または Application Control をインストールする前に、次のガイドラインを確認し、ご使用の環境が要件を満たしているかどうか確認してください。

- システムに既存インストールが含まれないことを確認します。ソフトウェアの別インスタンスがすでにインストール済みで有効モードの場合には、インストール エラーになる可能性があります。
 - インストール済みのバージョンがアップグレードに対応している場合 (リリース ノートと [KB84098](#) を参照)、『ソフトウェアのアップグレード』を参照してください。
 - アップグレードがインストール済みバージョンでサポートされていない場合、新しいバージョンをインストールする前に既存バージョンをアンインストールします。
- McAfee ダウンロード サイトからライセンス キーをダウンロードします。インストールを開始する前に書き留めて準備しておきます。
- Change Control と Application Control のシステム最小要件、対応オペレーティング システム、対応ファイル システムを確認します ([KB84098](#) を参照)。
- ソフトウェアをインストールするプラットフォームがサポートされているかどうか確認します。 [KB76459](#) (Change Control) と [KB73341](#) (Application Control) を参照してください。
- リリース ノートを確認すると、既知の問題を詳しく調べたり、依存関係を識別できます。
- 次のプラットフォーム固有の要件を確認します。

| プラットフォーム | 要件 |
|----------|---|
| Windows | <ul style="list-style-type: none"> 製品が <SYSTEM_VOLUME>\Solidcore ディレクトリとサブディレクトリにインストールされていないことを確認します。 システム ドライブに製品がインストールされていることを確認します。 Windows 2000 を除くすべてのプラットフォームでは、その他のファイル セキュリティ プログラム (ウイルス対策プログラムまたはファイル暗号化プログラム) をインストール済みで、システムで実行中の場合、HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\Mup\Parameters に DfsIrpStackSize という名前のレジストリ キーを作成し、そのキーに 10 進数の 10 を設定してください。このレジストリ キーがすでに存在する場合、10 進数の 10 に設定されていることを確認してください。 |
| AIX | システムに genkex パッケージがインストールされていることを確認します。 |
| Linux | <p>Linux オペレーティング システムの対応カーネルについては、KB82066 を参照してください。この記事に対象のカーネルが記載されていない場合、次のいずれかの操作を行ってください。</p> <ul style="list-style-type: none"> テスト環境でカーネル モジュールをコンパイルして、本稼働環境のエンドポイントに手動で配備する。詳細については、「非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する」を参照してください。 McAfee Accept ポータルから Product Enhancement Request (PER) を送信し、カーネルサポートを依頼する。PER の送信方法については、KB60021 を参照してください。 |

インストーラーの取得

Solidcore クライアントは、このソフトウェアがインストールされたシステムで変更の監視、変更の保護、ホワイトリスト作成の機能を提供するソフトウェア コンポーネントです。Solidcore クライアントをインストールする前に、Solidcore クライアントをダウンロードします。

タスク

- 1 McAfee ダウンロード サイトからパッケージをダウンロードします。

使用可能な Solidcore クライアント パッケージは次のとおりです。

| | |
|---------|-----------------------------------|
| Windows | SOLIDCOR<version>-<build>_WIN.zip |
| AIX | SOLIDCOR<version>-<build>_AIX.zip |
| Linux | SOLIDCOR<version>-<build>_LNX.zip |



ファイル名の <version> と <build> は、製品に関連付けられたバージョンとビルド番号を示します。たとえば、SOLIDCOR614-211_LNX.zip ファイルには、Linux プラットフォーム用の Solidcore クライアント (バージョン 6.1.4、ビルド番号 211) が含まれます。

- 2 パッケージ ファイルをアクセス可能な場所に保存します。
- 3 必要なオペレーティング システムのパッケージ ファイルを開きます。

Solidcore クライアント パッケージ ファイルには、オペレーティング システム用のインストーラーが含まれます。

- 4 必要なインストーラーを展開します。

Windows オペレーティング システムの場合、ターゲット アーキテクチャおよび分散に基づき異なるインストーラーを使用できます。インストーラーのファイル名は、`setup-win-<os>-<arch>-<rel>.<build>.exe` の形式です。構文:

- <arch>
- x86 – 32 ビット アーキテクチャ
 - ia64 – Intel 64 ビット アーキテクチャ
 - amd64 – AMD 64 ビット アーキテクチャ
- <os> インストーラーの適用先のオペレーティング システムを示します。

対話モードでインストールする

対話モードでは、インストーラーが開始するウィザードに従ってインストールを実行できます。対話モードを使用すると、Windows と AIX プラットフォームにソフトウェアをインストールできます。Linux プラットフォームでは、対話モードを使用できません。

タスク

- 9 ページの「[Windows プラットフォームにインストールする](#)」
Windows システムに対話モードでソフトウェアをインストールします。
- 10 ページの「[AIX プラットフォームにインストールする](#)」
AIX システムに対話モードでソフトウェアをインストールします。

Windows プラットフォームにインストールする

Windows システムに対話モードでソフトウェアをインストールします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 インストーラー ファイルを格納するディレクトリに移動します。
- 3 インストーラーを開始します。
 - Windows Vista、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 7 (UAC 有効化)、Windows 8.1、Windows Server 2012、Windows 10 の場合、Windows エクスプローラーでインストーラー ファイルを右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
 - 他の Windows プラットフォームの場合には、Windows エクスプローラーでインストーラー ファイルをダブルクリックします。
- 4 [ようこそ] ページで [次へ] をクリックして、[使用許諾条件] ページを表示します。
- 5 使用許諾条件に同意して [次へ] をクリックし、[顧客情報] ページを表示します。
- 6 ユーザおよび会社情報を入力します。
- 7 [シリアル番号] フィールドにライセンス キーを入力するか、[ライセンス キーなしでインストール] を選択します。
- 8 [次へ] をクリックして、[宛先フォルダー] ページを開きます。
- 9 インストール フォルダを指定します。

デフォルトでは、ソフトウェア ファイルは <system drive>:\Program Files\McAfee\Solidcore フォルダにインストールされます。
- 10 (任意) [参照] をクリックして、インストール後の設定に使用するバッチ ファイルまたは実行ファイルを指定します。

指定したファイルは、システムにソフトウェアがインストールされた後に自動的に開始します。

- 11 [プログラムのインストール準備] ページで [インストール] をクリックし、インストールを開始します。
- 12 [完了] をクリックして、インストールを完了します。

AIX プラットフォームにインストールする

AIX システムに対話モードでソフトウェアをインストールします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを実行してインストーラーを実行します。

```
# ./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin
```

インストールの開始を通知するメッセージが表示されます。

```
----- McAfee Solidifier セットアップ ウィザードへようこそ -----
----- 以下の使用許諾条件をお読みください。インストールを続行する前に、使用許諾条件に同意する必要があります。 [Enter] を押して続行してください: -----
```

- 4 **Enter** を押すと、McAfee 使用許諾条件が表示されます。
- 5 メッセージを最後まで表示すると、使用許諾条件に同意するように指示されます。

```
この使用許諾条件に同意しますか? [y/n]:
```

- 6 **Y** を押して使用許諾条件に同意します。
- インストール パスを指定するように指示されます。

```
----- インストール パス -----
McAfee Solidifier をインストールするパスを入力してください。 McAfee Solidifier のインストール パス [/usr/local]:
```

- 7 **Enter** を押して、デフォルトのインストール パス (/usr/local/mcafee/solidcore) を使用するか、別のインストール パスを指定します。
- ライセンス キーを指定するように指示されます。

```
----- 製品ライセンス キー: -----
製品ライセンス キーを入力してください:
製品のライセンス キー (この手順をスキップしてインストール後にライセンス キーを追加するには、ENTER を押してください) [ ]
```

- 8 次のいずれかの手順を実行します。
 - ライセンス キーを入力して、**Enter** を押します。
 - **Enter** を押して、インストール後に `sadmin license add` コマンドを実行してライセンス キーを指定します。

次のメッセージが表示されます。

```
----- コンピューターに  
McAfee Solidifier をインストールする準備ができました  
続行しますか? [Y/N]:
```

- 9 Y と入力するか、**Enter** を押してインストールを開始します。

製品のインストールが正常に実行されると、次のメッセージが表示されます。

```
コンピューターに McAfee Solidifier がインストールされました。
```

サイレント モードでインストールする

サイレント インストールを実行するには、提供されるコマンド ライン オプションを使用してすべての対話を抑制し、すべてのオプションにパラメーターを入力します。

サイレント モードでインストールすると、メッセージは表示されません。インストールが正常に実行されたかどうかなどのインストール情報はログ ファイルに記録されます。ログ ファイルを確認すると、インストール結果を判定できます。サイレント モードでは、Windows、AIX、Linux プラットフォームにソフトウェアをインストールできます。

タスク

- 12 ページの「[Windows プラットフォームにインストールする](#)」
Windows システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。
- 12 ページの「[Linux プラットフォームにインストールする](#)」
Linux システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。
- 14 ページの「[AIX プラットフォームにインストールする](#)」
AIX システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。

Windows プラットフォームにインストールする

Windows システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 必要なインストーラーが使用できることを確認します。
- 3 コマンド ウィンドウを開き、次のいずれかのコマンドを実行します。

```
<installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx"
```

```
<installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1"
```

/v の後の二重引用符 (") と、/s と /v の間のスペースに注意してください。/v と二重引用符 (") の間にはスペースは入れません。以下にこのコマンドに指定可能なすべての引数について説明します。SERIALNUMBER または UNLICVER 引数のほか、任意でコマンドに以下の引数を 1 つ以上指定できます。

| 引数 | 説明 |
|--------------|--|
| SERIALNUMBER | インストールのライセンス キーを指定します。 <installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx" |
| UNLICVER | ライセンス キーを指定せずにソフトウェアをインストールします。この引数には 0 または 1 を指定できます。値が 1 の場合、ライセンス キーを使用せずにソフトウェアをインストールすることを示します。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1" |
| SHORTCUT | コマンドライン ツールのデスクトップ ショートカットを作成します。この引数には 0 または 1 を指定できます。ショートカットを作成するには 1 を指定します。ショートカットを作成しない場合には 0 を指定します。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 SHORTCUT=1" |
| POSTINSTALL | システムでインストール後の設定を行うファイルを指定します。スペースを含むパスを指定するには、パスを二重引用符 (") で囲みます。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 POSTINSTALL=\"C:\\My Dir\\batch.exe\"" |
| INSTALLDIR | ユーザーが指定した場所にソフトウェアをインストールします。この引数を使用すると、最大 240 文字 (特殊文字を含む文字列全体) のフォルダー パスを指定できます。 <installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx INSTALLDIR=\"C:\\My Dir\\McAfee\\Solidcore\"" |
| /l+*v | Solidcore_Installer.log のデフォルトの場所を変更します。デフォルトの場所は SYSTEMROOT ディレクトリです。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 /l+*v \"C:\\Solidcore_Installer.log\"" |

Linux プラットフォームにインストールする

Linux システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。

開始する前に

Linux オペレーティング システムでインストールを実行する前に、[KB82066](#) を参照して、対応カーネルに関する情報を確認してください。カーネル リリース サイクルに合わせて新しいカーネルがサポートされています。インストール前にカーネル リストの確認を行ってください。この記事に対象のカーネルが記載されていない場合、次のいずれかの操作を行ってください。

- テスト環境でカーネル モジュールをコンパイルして、本稼働環境のエンドポイントに手動で配備する。詳細については、「**非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する**」を参照してください。
- McAfee Accept ポータルから Product Enhancement Request (PER) を送信し、カーネル サポートを依頼する。PER の送信方法については、[KB60021](#) を参照してください。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 Solidcore クライアント パッケージ ファイルのコンテンツを展開します。
- 4 mapkg_install スクリプト ファイルを実行します。

```
./mapkg_install.sh
```

インストール スクリプトによって、インストール関連タスクが実行されます。デフォルトでは、ソフトウェアは `/usr/local/mcafee/solidcore` ディレクトリにインストールされます。

- 5 ログ ファイルを確認します。『インストールを確認する』を参照してください。

AIX プラットフォームにインストールする

AIX システムにサイレント モードでソフトウェアをインストールします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 次のコマンドを実行してインストーラーを実行します。

```
./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin --mode unattended
```

インストーラーの実行中に、次のオプション パラメーターを指定できます。

| パラメータ | 説明 |
|---------------------------|---|
| <code>--licensekey</code> | <p>インストール中にライセンス キーを指定します。以下に例を示します。</p> <pre># ./solidifier-6.0.1-1007-aix-ppc32.bin --mode unattended --licensekey 1234-1234-1234-1234</pre> <div style="border: 1px solid gray; padding: 5px; margin-top: 10px;">  ライセンス キーを指定せずに製品をインストールする場合、<code>sadmin license add</code> コマンドを実行すると後でライセンス キーを入力できます。 </div> |
| <code>--prefix</code> | <p>ユーザーが指定した場所に製品をインストールします。以下に例を示します。</p> <pre># ./solidifier-6.0.1-1007-aix-ppc64.bin --mode unattended --prefix /usr/john/myapps</pre> |
| <code>--optionfile</code> | <p>ASCII ファイルを使用して、すべてのインストール オプションを指定します。以下に例を示します。</p> <pre># ./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin --optionfile /usr/john/myopfile</pre> <p>ASCII ファイルには、次の構文でインストーラー オプションを記述する必要があります。</p> <pre>mode=unattended [licensekey=<licensekey>] [prefix=<pathname>]</pre> <p>以下にオプション ファイルの例を示します。</p> <pre>mode=unattended licensekey=1234-1234-1234-1234 prefix=/usr/john/myapps</pre> |

インストールを確認する

ソフトウェアが正常にインストールされていることを確認します。

タスク

- 14 ページの「[Windows プラットフォームで確認する](#)」
Windows プラットフォームでソフトウェアが正常にインストールされていることを確認します。
- 15 ページの「[Linux と AIX プラットフォームで確認する](#)」
Linux と AIX プラットフォームでソフトウェアが正常にインストールされていることを確認します。

Windows プラットフォームで確認する

Windows プラットフォームでソフトウェアが正常にインストールされていることを確認します。

タスク

製品の機能、使用方法、ベストプラクティスについては、[?] または [ヘルプ] をクリックしてください。

- 次のコンポーネントを確認します。
 - McAfee Solidifier の項目が [プログラム] メニューに追加されます。
 - swin.sys ファイルが %SystemRoot%\System32\Drivers に追加されます。
 - McAfee Solidifier サービスが Windows サービスに追加されます。
 - 製品固有のレジストリ設定が作成される場所:
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\swin
 - HKEY_LOCAL_MACHINE\SYSTEM\CurrentControlSet\Services\scsrvc
 - 追加ファイルがインストール ディレクトリに配置されます。そのファイルは製品の内部にあり、変更してはなりません。
 - Solidcore_Installer.log と solidcore_setup.log が %SYSTEMROOT% に作成されます。ログ ファイルのコンテンツを表示すると、インストール中にエラーが発生したかどうかを確認できます。

Linux と AIX プラットフォームで確認する

Linux と AIX プラットフォームでソフトウェアが正常にインストールされていることを確認します。

タスク

製品の機能、使用方法、ベストプラクティスについては、[?] または [ヘルプ] をクリックしてください。

1 ログ ファイルを確認します。

- Linux
- インストールが正常に完了すると、solidcoreS3_install_<rel>-<build>.log が /var/log/mcafee/solidcore ディレクトリに作成されます。
 - インストールでエラーが発生すると、solidcoreS3_install.log ファイルは /tmp ディレクトリにあります。エラーの詳細については、/tmp ディレクトリにある最新の bitrock_installer.log または bitrock_installer_<PID>.log を確認してください。詳しい調査が必要な場合には、McAfee サポート (<https://mysupport.mcafee.com/>) にログ ファイルを送信してください。
- AIX
- /tmp ディレクトリにある最新の bitrock_installer.log または bitrock_installer_<PID>.log を確認してください。詳しい調査が必要な場合には、McAfee サポート (<https://mysupport.mcafee.com/>) にログ ファイルと gatherinfo ログを送信してください。

2 Solidcore 製品がシステムのパッケージ データベースに報告されていることを確認します。

Linux (すべてのディストリビューション) # rpm -q solidcoreS3 solidcoreS3-kmod

次のメッセージが表示されます。

```
solidcoreS3-<rel>-<build> solidcoreS3-kmod-<rel>-<build>
```

Linux (Ubuntu) dpkg -l solidcores3 solidcores3-kmod

次のメッセージが表示されます。

```
solidcores3 <rel>-<build> McAfee Solidifier が企業のサーバー システムに包括的な制御ソリューションを提供します。
```

```
solidcores3-kmod <rel>-<build> このパッケージは、McAfee Solidifier for Linux のカーネル コンポーネントを提供します。
```

AIX # lslpp -l solidcoreS3

次のメッセージが表示されます。

```
Fileset Level State
Description -----
Path: /usr/lib/objrepos solidcoreS3 <rel>.<build> COMMITTED McAfee Solidifier
for AIX, <rel>.<build>.
```

3 インストール中に solidcore.conf ファイルが /etc ディレクトリに作成されていることを確認します。

```
# ls -ls /etc/mcafee/solidcore/solidcore.conf
```

4 ソフトウェア サービス (scsrvc) がシステムに追加されていることを確認します。

- Linux - # ls -ls /etc/init.d/scsrvc

- AIX - # ls -ls /etc/scsrvc

5 ソフトウェア サービス (scsrvc) が実行されていることを確認します。

```
# ps -ef | grep scsrvc
```

このコマンドのオプションによって、2 つ以上の scsrvc プロセスがインストール場所から実行中であることが示されるはずですが。

6 製品ファイルがインストール ディレクトリに配置されていることを確認します。

```
# ls -ls <install-dir>
```

2

ソフトウェアのアップグレード

スタンドアロン構成の Change Control または Application Control をアップグレードします。

ソフトウェアは、次のいずれかのモードでアップグレードできます。

- **対話モード** – インストール ウィザードに従って、ソフトウェアのアップグレードに必要な手順を実行できます。
- **サイレントモード** – 非対話モードでアップグレードされます。進行状況バーもメッセージも表示されません。アップグレードが正常に実行されたかどうかなどのアップグレード情報はログ ファイルに記録されます。ログ ファイルを確認すれば、アップグレードの結果を判定できます。中規模または大規模環境での配備に推奨にモードです。

目次

- ▶ 操作を始める前に
- ▶ 対話モードでアップグレードする
- ▶ サイレントモードでアップグレードする
- ▶ アップグレードの確認

操作を始める前に

Change Control または Application Control をアップグレードする前に、次のガイドラインを確認し、ご使用の環境が要件を満たしているかどうか確認してください。

- アップグレードが行われるのは、既存のインストール場所のみの可能性があります。代替パスへのアップグレードはサポートされていません。
- アップグレードは、更新、有効および無効モードでサポートされています。
 - 対応の Windows プラットフォームの場合、有効モードでソフトウェアをアップグレードできます。UNIX プラットフォームの場合、有効モードでのアップグレードはできません。配布ツールを使用して有効モードでのアップグレードを行う場合には、ソフトウェア配布ツールに関連するすべてのバイナリ ファイルに更新プログラム特権を割り当てる必要があります。ファイルに更新プログラム特権を割り当てるには、次のコマンドを実行します。
`updaters add <binary file>`
 - 無効モードでアップグレードする場合、Application Control の使用時にシステムのホワイトリストを再作成してください。Windows プラットフォームの場合、ソフトウェアのアップグレード後にシステムを再起動する必要があります。



Application Control は監視モードにも対応しています。ただし、このモードはスタンドアロン構成で使用できません。McAfee® ePolicy Orchestrator® (McAfee ePO) がシステムを管理している場合のみ使用できます。

- デフォルトのルール リスト (新規インストールで使用可能) はアップグレード時にインポートされません。アップグレード前に適用された既存の監視、フィルタ、読み取り保護、および書き込み保護ルールはすべて変更なしにそのまま残ります。

- リリース ノートを確認すると、既知の問題を詳しく調べたり、検討の必要がある依存関係を識別したりすることができます。
- Linux オペレーティング システムの対応カーネルについては、[KB82066](#) を参照してください。この記事に対象のカーネルが記載されていない場合、次のいずれかの操作を行ってください。
 - テスト環境でカーネル モジュールをコンパイルして、本稼働環境のエンドポイントに手動で配備する。詳細については、「[非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する](#)」を参照してください。
 - [McAfee Accept](#) ポータルから Product Enhancement Request (PER) を送信し、カーネル サポートを依頼する。PER の送信方法については、[KB60021](#) を参照してください。

対話モードでアップグレードする

対話モードを使用すると、Windows と AIX プラットフォームでソフトウェアをアップグレードできます。

タスク

- [18 ページの「Windows プラットフォームでアップグレードする」](#)
Windows システムのソフトウェアを対話モードでアップグレードします。
- [19 ページの「AIX プラットフォームでアップグレードする」](#)
AIX システムのシステムを対話モードでアップグレードします。

Windows プラットフォームでアップグレードする

Windows システムのソフトウェアを対話モードでアップグレードします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 インストーラー ファイルを格納するディレクトリに移動します。
- 3 更新モードに切り替えます。

```
> sadmin begin-update
```



システムが有効または無効モードの場合、現在のモードでアップグレードを実行できます。有効モードの場合、対応する Windows プラットフォームでソフトウェアをアップグレードできます。配布ツールを使用して有効モードでアップグレードを実行する前に、ツールに関連するすべてのバイナリ ファイルに更新プログラム特権を割り当てる必要があります。ファイルに更新プログラム特権を割り当てるには、次のコマンドを実行します。

```
updaters add <binary file>
```

- 4 インストーラーを開始します。
 - Windows Vista、Windows 2008、Windows 2008 R2、Windows 7 (UAC 有効化)、Windows 8.1、Windows 2012 の場合、Windows エクスプローラーでインストーラー ファイルを右クリックし、[管理者として実行] を選択します。
 - 他の Windows プラットフォームの場合には、Windows エクスプローラーでインストーラー ファイルをダブルクリックします。メッセージ ボックスが表示され、ソフトウェアをアップグレードするかどうか確認されます。[はい] をクリックして続行します。
- 5 [次へ] をクリックして、アップグレードを開始します。
- 6 [アップグレードの完了] ページで [完了] をクリックします。

- 7 システムの再起動が指示されたら、[はい] をクリックします。
- 8 更新モードを終了します。

```
> sadmin end-update
```

これにより、システムが有効モードに切り替わります。

AIX プラットフォームでアップグレードする

AIX システムのシステムを対話モードでアップグレードします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 更新モードに切り替えます。

```
# sadmin begin-update
```



システムが現在無効モードの場合、現在のモードでアップグレードを選択します。

- 4 次のコマンドを使用して、インストーラーを実行します。

```
# ./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin
```

次のメッセージが表示されます。

```
McAfee Solidifier は更新モードです。 [Enter] を押して続行してください:
```

- 5 **Enter** を押すと、McAfee 使用許諾条件が表示されます。
- 6 最後のページが表示されるまで **Enter** キーを押します。
使用許諾条件に同意するように指示されます。

```
この使用許諾条件に同意しますか? [y/n]:
```

- 7 使用許諾条件をよく読み、Y と入力してどうします。
次のアクションを選択するように指示されます。

```
Solidifier がインストールされています。 オプションを選択してください:  
[1] 終了  
[2] アップグレード  
オプションを選択してください [1]
```

- 8 2 と入力して、アップグレード プロセスに進みます。



この手順の後には注意してください。 **[Ctrl]** と **[C]** を同時に押してアップグレードをキャンセルまたは中断すると、既存のインストールが不整合な状態になる可能性があります。

- 9 再起動が指示されたら、**Enter** を押してください。
- 10 Y と入力するか、**Enter** を押してアップグレードを続行します。
製品が正常にアップグレードされると、次のメッセージが表示されます。

```
コンピューターに McAfee Solidifier がインストールされました。
```

11 更新モードを終了します。

```
# sadmin end-update
```

12 システムを再起動して、アップグレードを完了します。

サイレント モードでアップグレードする

サイレント アップグレードを実行するには、コマンドライン オプションを使用してすべての対話を抑止し、すべてのオプションにパラメーターを入力します。サイレント モードでは、Windows、AIX、Linux プラットフォームでソフトウェアをアップグレードできます。

タスク

- 20 ページの「[Windows プラットフォームでアップグレードする](#)」
Windows システムのソフトウェアをサイレント モードでアップグレードします。
- 21 ページの「[Linux プラットフォームでアップグレードする](#)」
Linux システムのシステムをサイレント モードでアップグレードします。
- 22 ページの「[AIX プラットフォームでアップグレードする](#)」
AIX システムのシステムをサイレント モードでアップグレードします。

Windows プラットフォームでアップグレードする

Windows システムのソフトウェアをサイレント モードでアップグレードします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 必要なインストーラーが使用できることを確認します。
- 3 コマンド ウィンドウを開き、更新モードに切り替えます。

```
> sadmin begin-update
```



システムが有効または無効モードの場合、現在のモードでアップグレードを実行できます。有効モードの場合、対応する Windows プラットフォームでソフトウェアをアップグレードできます。配布ツールを使用して有効モードでアップグレードを実行する前に、ツールに関連するすべてのバイナリ ファイルに更新プログラム特権を割り当てる必要があります。ファイルに更新プログラム特権を割り当てるには、次のコマンドを実行します。

```
updaters add <binary file>
```

4 次のいずれかのコマンドを実行します。

```
<installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx"
```

```
<installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1"
```

/v の後の二重引用符 (") と、/s と /v の間のスペースに注意してください。/v と二重引用符 (") の間にはスペースは入れません。以下にこのコマンドに指定可能なすべての引数について説明します。SERIALNUMBER または UNLICVER 引数のほか、任意でコマンドに以下の引数を 1 つ以上指定できます。

| 引数 | 説明 |
|--------------|--|
| SERIALNUMBER | インストールのライセンス キーを指定します。 <installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx" |
| UNLICVER | ライセンス キーを指定せずにソフトウェアをインストールします。この引数には 0 または 1 を指定できます。値が 1 の場合、ライセンス キーを使用せずにソフトウェアをインストールすることを示します。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1" |
| SHORTCUT | コマンドライン ツールのデスクトップ ショートカットを作成します。この引数には 0 または 1 を指定できます。ショートカットを作成するには 1 を指定します。ショートカットを作成しない場合には 0 を指定します。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 SHORTCUT=1" |
| POSTINSTALL | システムでインストール後の設定を行うファイルを指定します。スペースを含むパスを指定するには、パスを二重引用符 (") で囲みます。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 POSTINSTALL=\"C:\\My Dir\\batch.exe\"" |
| INSTALLDIR | ユーザーが指定した場所にソフトウェアをインストールします。この引数を使用すると、最大 240 文字 (特殊文字を含む文字列全体) のフォルダー パスを指定できます。 <installer-file> /s /v" /qn SERIALNUMBER=xxxx-xxxx-xxxx-xxxx-xxxx INSTALLDIR=\"C:\\My Dir\\McAfee\\Solidcore\"" |
| /l+*v | Solidcore_Installer.log のデフォルトの場所を変更します。デフォルトの場所は SYSTEMROOT ディレクトリです。 <installer-file> /s /v" /qn UNLICVER=1 /l+*v \"C:\\Solidcore_Installer.log\"" |

5 システムを再起動して、アップグレードを完了します。

6 更新モードを終了します。

```
> sadmin end-update
```

これにより、システムが有効モードに切り替わります。

Linux プラットフォームでアップグレードする

Linux システムのシステムをサイレント モードでアップグレードします。

開始する前に

Linux オペレーティング システムでアップグレードを実行する前に、KB82066 を参照して、対応カーネルに関する情報を確認してください。カーネル リリース サイクルに合わせて新しいカーネルがサポートされています。アップグレードの前にカーネル リストの確認を行ってください。この記事に対象のカーネルが記載されていない場合、次のいずれかの操作を行ってください。

- テスト環境でカーネル モジュールをコンパイルして、本稼働環境のエンドポイントに手動で配備する。詳細については、「[非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する](#)」を参照してください。
- [McAfee Accept](#) ポータルから Product Enhancement Request (PER) を送信し、カーネル サポートを依頼する。PER の送信方法については、[KB60021](#) を参照してください。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 更新モードに切り替えます。

```
# sadmin begin-update
```



システムが現在無効モードの場合、現在のモードでアップグレードを選択します。6.1.0 から新しいリリースにアップグレードする場合には、アップグレードの前にエンドポイントを再起動してください。

- 4 `mapkg_install` スクリプト ファイルを実行します。

```
./mapkg_install.sh
```

スクリプト ファイルがアップグレードに関連するタスクをすべて実行します。ワークフローの詳細については、『[非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する](#)』を参照してください。

- 5 ログ ファイルを確認します。『[アップグレードの確認](#)』を参照してください。
- 6 システムを再起動して、アップグレードを完了します。
- 7 更新モードを終了します。

```
# sadmin end-update
```

これにより、システムが有効モードに切り替わります。

AIX プラットフォームでアップグレードする

AIX システムのシステムをサイレント モードでアップグレードします。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、インストーラー ファイルのあるディレクトリに移動します。
- 3 更新モードに切り替えます。

```
# sadmin begin-update
```



システムが現在無効モードの場合、現在のモードでアップグレードを選択します。

- 4 次のコマンドを実行して、インストーラーを実行します。

```
./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin --mode unattended
```

インストーラーの実行中に、次のオプション パラメーターを指定できます。

| パラメータ | 説明 |
|---------------------------|--|
| <code>--licensekey</code> | インストール中にライセンス キーを指定できます。以下に例を示します。 <pre># ./solidifier-6.0.1-1007-aix-ppc32.bin --mode unattended --licensekey 1234-1234-1234-1234-1234</pre>  ライセンス キーを指定せずに製品をインストールする場合、 <code>sadmin license add</code> コマンドを実行すると後でライセンス キーを入力できます。 |
| <code>--optionfile</code> | ASCII ファイルを使用してすべてのインストール オプションを指定できます。以下に例を示します。 <pre># ./solidifier-<rel>-<build>-aix-<arch>.bin --optionfile /usr/john/myopfile</pre> ASCII ファイルには、次の構文でインストーラー オプションを記述する必要があります。 <pre>mode=unattended [licensekey=<licensekey>] [prefix=<pathname>]</pre> 以下にオプション ファイルの例を示します。 <pre>mode=unattended licensekey=1234-1234-1234-1234-1234 prefix=/usr/john/myapps</pre> |

- 5 システムを再起動して、アップグレードを完了します。

- 6 更新モードを終了します。

```
# sadmin end-update
```

これにより、システムが有効モードに切り替わります。

アップグレードの確認

Change Control または Application Control がシステムで正常にアップグレードされたことを確認します。

| プラットフォーム | 手順 |
|-----------------------|--|
| Windows プラットフォームで確認する | sadmin version コマンドを実行し、正しいバージョンのソフトウェアがリストに表示されていることを確認します。 |
| Linux プラットフォームで確認する | <p>1 ログ ファイルを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> アップグレードが正常に完了すると、solidcoreS3_install_<rel>-<build>.log が /var/log/mcafee/solidcore ディレクトリに作成されます。 アップグレードでエラーが発生すると、solidcoreS3_install.log ファイルは /tmp ディレクトリにあります。エラーの詳細については、/tmp ディレクトリにある最新の bitrock_installer.log または bitrock_installer_<PID>.log を確認してください。詳しい調査が必要な場合には、McAfee サポート (https://mysupport.mcafee.com/) にログ ファイルと gatherinfo ログを送信してください。 <p>2 次のコマンドを実行し、Solidcore 製品がシステムのパッケージ データベースに報告されていることを確認します。</p> <ul style="list-style-type: none"> Linux (すべてのディストリビューション): # rpm -q solidcoreS3 solidcoreS3-kmod 次のメッセージが表示されます。 <pre>solidcoreS3-<rel>-<build> solidcoreS3-kmod-<rel>-<build></pre> Linux (Ubuntu): dpkg -l solidcores3 solidcores3-kmod 次のメッセージが表示されます。 <pre>solidcores3 <rel>-<build> McAfee Solidifier が企業のサーバー システムに包括的な制御ソリューションを提供します。</pre> <pre>solidcores3-kmod <rel>-<build> このパッケージは、McAfee Solidifier for Linux のカーネル コンポーネントを提供します。</pre> |
| AIX プラットフォームで確認する | <p>1 /tmp ディレクトリにある最新の bitrock_installer.log または bitrock_installer_<PID>.log を確認してください。詳しい調査が必要な場合には、McAfee サポート (https://mysupport.mcafee.com/) にログ ファイルと gatherinfo ログを送信してください。</p> <p>2 次のコマンドを実行し、Solidcore 製品がシステムのパッケージ データベースに報告されていることを確認します。</p> <pre># lspp -l solidcoreS3</pre> <p>次のメッセージが表示されます。</p> <pre>Fileset Level State Description--- Path: /usr/lib/objrepos solidcoreS3 <rel>.<build> COMMITTED SolidcoreS3 McAfee Solidifier for AIX, <rel>.<build></pre> |

3

ソフトウェアのアンインストール

Change Control または Application Control をアンインストールします。

目次

- ▶ 対話モードでアンインストールする
- ▶ サイレント モードでアンインストールする

対話モードでアンインストールする

対話モードでは、インストーラーが開始するウィザードに従ってアンインストールを実行できます。対話モードを使用すると、Windows と AIX プラットフォームでソフトウェアをアンインストールできます。

タスク

- 25 ページの「[Windows プラットフォームでアンインストールする](#)」対話モードで Windows システムからソフトウェアを削除できます。
- 26 ページの「[AIX プラットフォームでアンインストールする](#)」対話モードで AIX システムからソフトウェアを削除します。

Windows プラットフォームでアンインストールする

対話モードで Windows システムからソフトウェアを削除できます。

タスク

1 管理者権限でシステムにログオンします。

2 無効モードに切り替えます。

```
> sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

3 インストーラーを開始します。

- Windows Vista 以降の場合、[プログラムと機能] に移動してウィンドウを開きます。
- 他の Windows プラットフォームの場合には、[プログラムの追加と削除] ウィンドウを開きます。

4 プログラムのリストから [McAfee Solidifier] を選択し、[削除] をクリックします。

メッセージが表示され、ソフトウェアを削除するかどうか確認されます。

5 [はい] をクリックして続行します。

システムからソフトウェアが削除されます。アンインストール中、ソフトウェアに関連するすべてのファイルが削除されます。一部のファイルがシステムに残る場合があります。次の手順に従って、残りのファイルを削除します。

- インストール ディレクトリ (通常は C:\Program Files\McAfee) 内の空の Solidcore フォルダー
- パブリック証明書が含まれる場合は、Certificate フォルダー

必要に応じて、これらのコンポーネントを手動で削除できます。

AIX プラットフォームでアンインストールする

対話モードで AIX システムからソフトウェアを削除します。

タスク

1 管理者権限でシステムにログオンします。

2 ターミナルを開き、無効モードに切り替えます。

```
# sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

3 インストール ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行してソフトウェアをアンインストールします。

```
# ./uninstall
```

4 指示されたら、Y と入力するか、**Enter** を押してアンインストールを続行します。

アンインストールが開始します。製品がアンインストールされると、次のメッセージが表示されます。

情報: アンインストールが完了しました。[Enter] t を押して続行してください:

5 **Enter** キーを押します。

サイレント モードでアンインストールする

サイレント アンインストールを実行するには、コマンドライン オプションを使用してすべての対話を抑制し、すべてのオプションにパラメーターを入力します。サイレント モードでは、Windows、AIX、Linux プラットフォームでソフトウェアをアンインストールできます。

タスク

- 27 ページの「[Windows プラットフォームでアンインストールする](#)」
サイレント モードで Windows システムからソフトウェアを削除します。
- 27 ページの「[Linux プラットフォームでアンインストールする](#)」
サイレント モードで Linux システムからソフトウェアを削除します。
- 27 ページの「[AIX プラットフォームでアンインストールする](#)」
サイレント モードで AIX システムからソフトウェアを削除します。

Windows プラットフォームでアンインストールする

サイレント モードで Windows システムからソフトウェアを削除します。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 コマンド ウィンドウを開き、無効モードに切り替えます。

```
> sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

- 3 次のコマンドを実行します。

```
%SYSTEMROOT%\system32\msiexec.exe /X{432DB9E4-6388-432F-9ADB-61E8782F4593} /qn
```

Linux プラットフォームでアンインストールする

サイレント モードで Linux システムからソフトウェアを削除します。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、無効モードに切り替えます。

```
# sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

- 3 インストール ディレクトリに移動します。
デフォルトでは、ソフトウェアは `/usr/local/mcafee/solidcore` ディレクトリにインストールされます。
- 4 次のコマンドを実行し、ソフトウェアをアンインストールします。

```
# ./uninstall
```
- 5 (任意) `/tmp` ディレクトリの `solidcoreS3_uninstall.log` ファイルでアンインストールを確認します。

AIX プラットフォームでアンインストールする

サイレント モードで AIX システムからソフトウェアを削除します。

タスク

- 1 管理者権限でシステムにログオンします。
- 2 ターミナルを開き、無効モードに切り替えます。

```
# sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

- 3 インストール ディレクトリに移動し、次のコマンドを実行してソフトウェアをアンインストールします。

```
# ./uninstall --mode unattended
```
- 4 (任意) `/tmp` ディレクトリの `solidcoreS3_uninstall.log` ファイルでアンインストールを確認します。

A

非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する

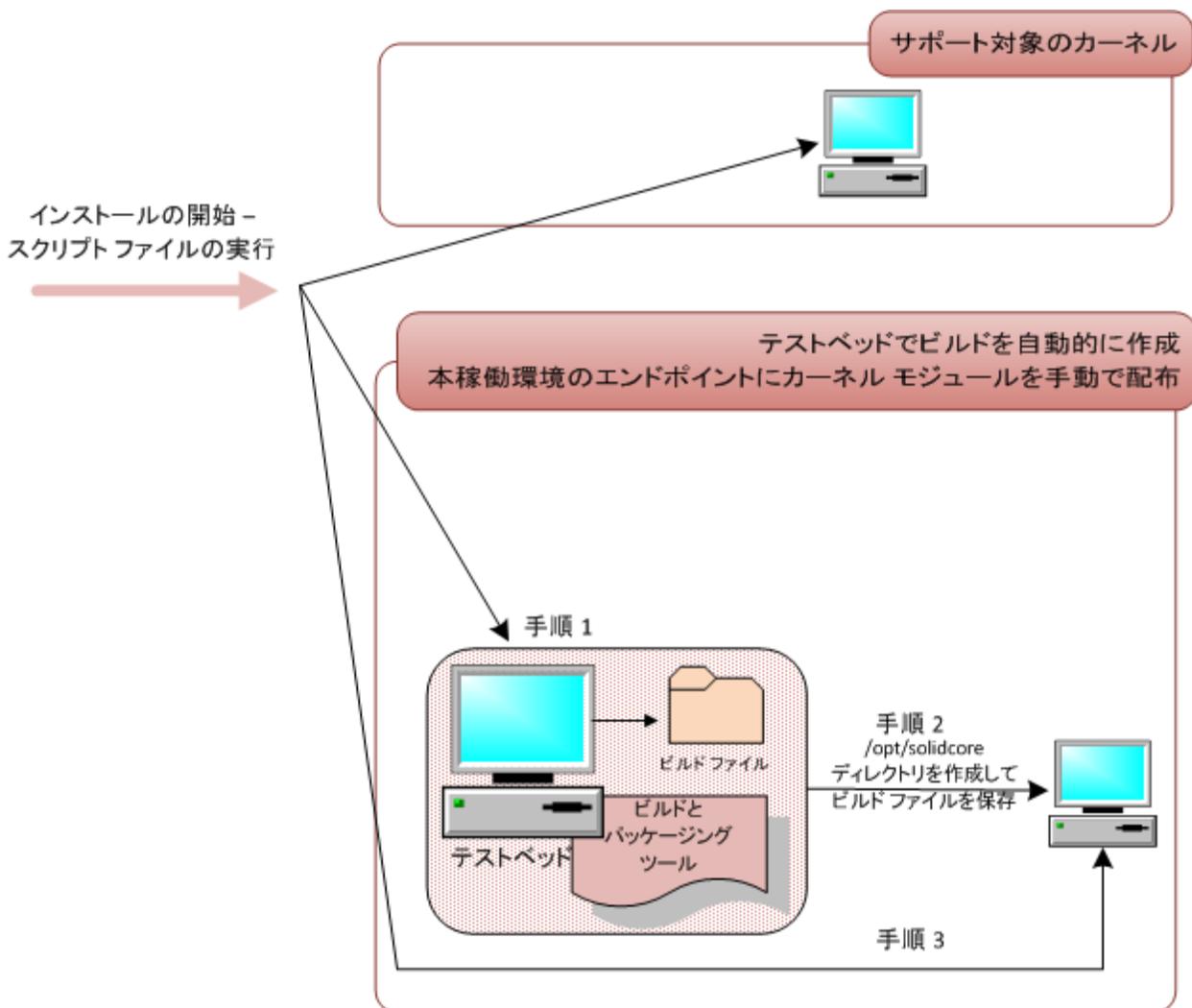
ここでは、非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する方法を説明します。

Application Control は、様々なカーネルに対応しています。ソフトウェアを直接インストールできるカーネルについては、[KB82066](#) を参照してください。 [KB82066](#) にないカーネルにインストールする場合には、以下のいずれかのタスクを実行します。

- テストベッド上でターゲット カーネル用のビルド ファイルを作成する。このビルドを本稼働環境の他のエンドポイントに配備します。
- カーネル サポートを取得するには、[McAfee Accept](#) ポータルで製品改善リクエスト (PER) を送信してください。製品管理チームが今後のカーネル リリース サイクルでの提供を検討します。PER の送信方法については、[KB60021](#) を参照してください。

適切な配備シナリオの判断

Linux オペレーティング システムのインストール ワークフローは、ターゲット カーネルがサポート対象かどうかによって異なります。 [KB82066](#) を参照して、ターゲット カーネルでサポートが利用可能かどうか確認してください。



ターゲット カーネルがサポート対象の場合のインストール方法

| 質問 | 回答 |
|---------------------------|---|
| 前のリリース以降から変更されている点がありますか？ | いいえ。ターゲット カーネルがサポート対象の場合、カーネルに直接インストールできます。 |
| 事前に注意すべき点がありますか？ | いいえ。 |
| インストール方法を教えてください。 | 『Linux プラットフォームにインストールする』の手順に従ってください。 |

カーネルがサポート対象外の場合のインストール方法を教えてください。

6.1.0 リリースからはカーネル モジュールのコンパイル機能が実装されています。テストベッドで必要なビルドを作成し、本稼働環境で同じカーネルを実行しているエンドポイントに手動でカーネル モジュールを配備できます。

| コンポーネント | 前提条件 | インストール方法を教えてください。 | | | | | | |
|----------------|---|---|--|----------------|--|----------------|--|---|
| テストベッド | <p>これらのツールがテストベッドにインストールされていることを確認します。 リストに表示されたビルド環境に準拠していない場合、ビルドとインストールに失敗します。</p> <table border="1" data-bbox="354 415 1109 1129"> <tr> <td data-bbox="354 415 592 835">ビルドとパッケージツール</td> <td data-bbox="592 415 1109 835"> <ul style="list-style-type: none"> • gmake (make パッケージで提供) • gcc (gcc パッケージで提供) • ld (binutils パッケージで提供) • ar (binutils パッケージで提供) • rpmbuild (Red Hat では rpm-build パッケージ、SUSE では rpm パッケージで提供) • cpio (cpio パッケージで提供) <p>パッケージのバージョンは、ディストリビューションの ISO と同じバージョンにする必要があります。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="354 835 592 1024">Kbuild フレームワーク</td> <td data-bbox="592 835 1109 1024"> <p>フレームワークを <code>/lib/modules/<kernelversion>/build/</code> にインストールします (SUSE 10 では <code>kernel-source</code> パッケージ、Ubuntu ディストリビューションでは <code>linux-headers</code>、他のディストリビューションでは <code>kernel-devel</code> パッケージ)。</p> </td> </tr> <tr> <td data-bbox="354 1024 592 1129">カーネル ソース パッケージ</td> <td data-bbox="592 1024 1109 1129"> <p>3.5.x 以降のカーネルを実行している場合には、カーネル ソース パッケージをダウンロードし、<code>/usr/src</code> ディレクトリに保存します。</p> </td> </tr> </table> | ビルドとパッケージツール | <ul style="list-style-type: none"> • gmake (make パッケージで提供) • gcc (gcc パッケージで提供) • ld (binutils パッケージで提供) • ar (binutils パッケージで提供) • rpmbuild (Red Hat では rpm-build パッケージ、SUSE では rpm パッケージで提供) • cpio (cpio パッケージで提供) <p>パッケージのバージョンは、ディストリビューションの ISO と同じバージョンにする必要があります。</p> | Kbuild フレームワーク | <p>フレームワークを <code>/lib/modules/<kernelversion>/build/</code> にインストールします (SUSE 10 では <code>kernel-source</code> パッケージ、Ubuntu ディストリビューションでは <code>linux-headers</code>、他のディストリビューションでは <code>kernel-devel</code> パッケージ)。</p> | カーネル ソース パッケージ | <p>3.5.x 以降のカーネルを実行している場合には、カーネル ソース パッケージをダウンロードし、<code>/usr/src</code> ディレクトリに保存します。</p> | <p>テストベッドが前提条件を満たしていることを確認し、『Linux プラットフォームにインストールする』の順に従います。 必要なビルドは、<code><インストール ディレクトリ>/dks</code> ディレクトリにあります。 ソフトウェアはテストベッドにインストールされます。</p> |
| ビルドとパッケージツール | <ul style="list-style-type: none"> • gmake (make パッケージで提供) • gcc (gcc パッケージで提供) • ld (binutils パッケージで提供) • ar (binutils パッケージで提供) • rpmbuild (Red Hat では rpm-build パッケージ、SUSE では rpm パッケージで提供) • cpio (cpio パッケージで提供) <p>パッケージのバージョンは、ディストリビューションの ISO と同じバージョンにする必要があります。</p> | | | | | | | |
| Kbuild フレームワーク | <p>フレームワークを <code>/lib/modules/<kernelversion>/build/</code> にインストールします (SUSE 10 では <code>kernel-source</code> パッケージ、Ubuntu ディストリビューションでは <code>linux-headers</code>、他のディストリビューションでは <code>kernel-devel</code> パッケージ)。</p> | | | | | | | |
| カーネル ソース パッケージ | <p>3.5.x 以降のカーネルを実行している場合には、カーネル ソース パッケージをダウンロードし、<code>/usr/src</code> ディレクトリに保存します。</p> | | | | | | | |
| 本稼働環境のエンドポイント | <ul style="list-style-type: none"> • 本稼働環境のエンドポイントに必要なビルドまたはパッケージ ツールはありません。 • 本稼働環境の各エンドポイントに <code>/opt/solidcore</code> ディレクトリを作成します。 デフォルトでは、このディレクトリは存在しないため、手動で作成する必要があります。 | <p>エンドポイントが前提条件を満たしていることを確認し、『本稼働環境のエンドポイントにインストールする方法を教えてください』の順に従います。</p> | | | | | | |

本稼働環境のエンドポイントにインストールする方法を教えてください。

次の手順に従って、本稼働環境のエンドポイントにカーネル モジュールを手動で配備します。

- 1 本稼働環境の各エンドポイントに `/opt/solidcore` ディレクトリを作成します。
- 2 作成したビルドをテストベッドの `<インストール ディレクトリ>/dks` ディレクトリから取得します。

ファイル名にカーネルの詳細が含まれます。 ビルド名の形式は、`solidifier-kmod-<rel>-<build>.<distro>.<kernel>.<arch>.<ext>` となります。 ファイル名を構成する要素は次のとおりです。

 - `<distro>` - 使用可能なディストリビューション。 LEL5 は Red Hat Enterprise Linux 5、LEL6 は Red Hat Enterprise Linux 6、LSES10 は SuSE Enterprise Linux 10、LSES11 は SuSE Enterprise Linux 11、LUBT12 は Ubuntu 12 を表します。
 - `<kernel>` - ビルドが作成されたカーネル

- <arch> – 32 ビット アーキテクチャの場合には i386、AMD 64 ビット アーキテクチャの場合には x86_64 になります。
- <ext> – Ubuntu の場合には .deb、他のディストリビューションは .rpm になります。

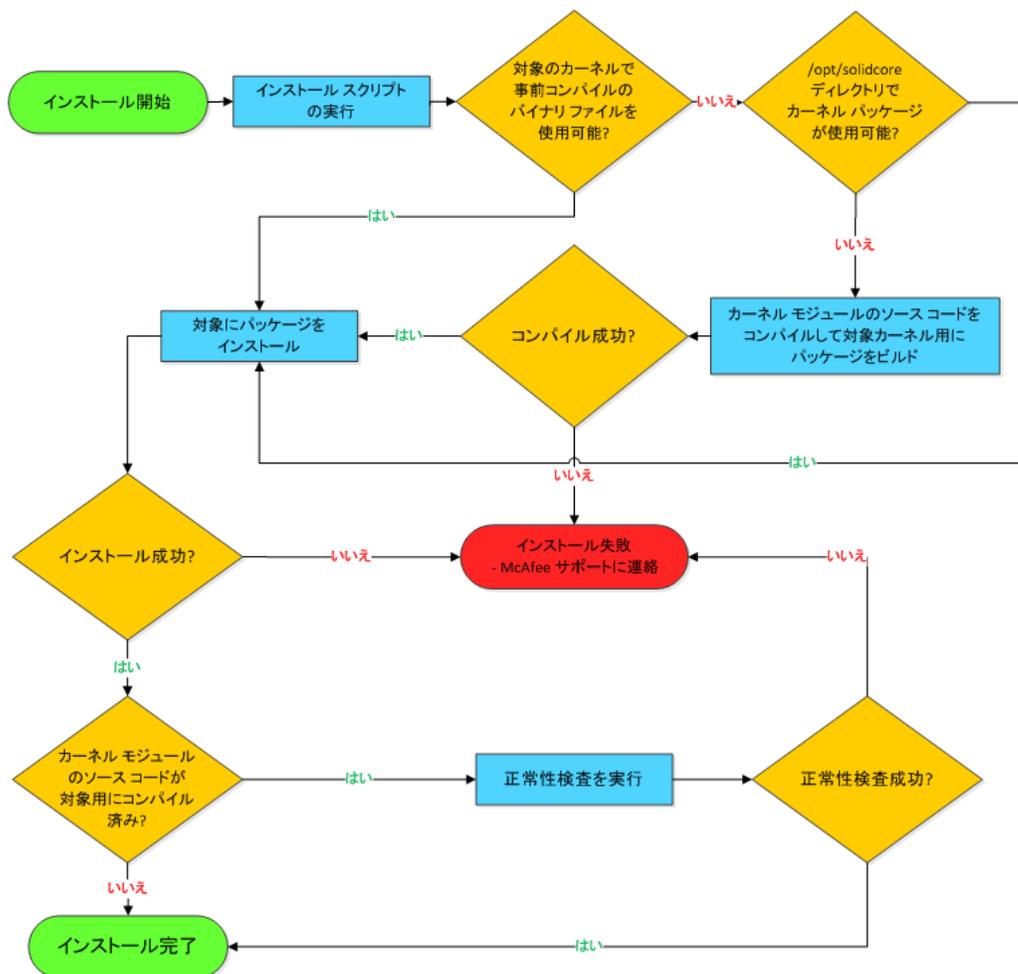
たとえば、Red Hat Enterprise Linux 6 に作成したビルドは次のようになります。

```
solidifier-kmod-6.1.0-9321.LEL6.2.6.32-279.2.1.el6.i686.i386.rpm
```

- 3 エンドポイントの /opt/solidcore ディレクトリにビルドを配置します。システム管理者に連絡して、本稼働環境で同じカーネルが実行されているエンドポイントにビルドを配布します。
- 4 『Linux プラットフォームにインストールする』の手順に従ってください。

インストールはどのように実行されますか？

インストールを開始すると、ソフトウェアがインストール スクリプトを実行し、次の検査とタスクを実行します。



B

よくある質問

ここでは、よくある質問について紹介します。

Change Control と Application Control に同じ Solidcore クライアントを使用できますか？

使用できる機能はライセンス キーによって決まります。1 つまたはすべての機能を同時に使用できます。Solidcore クライアントが有効になっているシステムでは、SKU (最小在庫管理単位) をいつでも追加したり、有効にすることができます。たとえば、Change Control を現在使用し、Application Control を追加して使用する場合には、次の手順に従ってください。

- 1 システムで Solidcore クライアントを無効にします。
- 2 ライセンスを入力します。
- 3 システムで Solidcore クライアントを有効にします。

Solidcore クライアントは仮想マシンに配備できますか？

仮想マシンにインストールされたオペレーティング システムが Solidcore クライアントに対応している場合、Solidcore クライアントは仮想マシン上で動作します。対応プラットフォームについては、[KB76459](#) (Change Control) と [KB73341](#) (Application Control) を参照してください。

サードパーティのソフトウェアを使用して、このソフトウェアの配布と配備を行うことはできますか？

Microsoft System Center Configuration Manager などのサードパーティ ツールを使用して、Change Control や Application Control のインストール、アップグレード、削除を行うことができます。ソフトウェアの配布方法については、サードパーティ ツールのドキュメントを参照してください。

サードパーティのツールでインストールしている場合には、ソフトウェアをインストールするコマンドを指定する必要があります。インストールに使用するコマンドの詳細については、『ソフトウェアのインストール』を参照してください。

ソフトウェア配布ツールを使用して Change Control と Application Control をアップグレードする前に、ツールのバイナリ ファイルに更新プログラム特権を割り当てる必要があります。ファイルに更新プログラム特権を割り当てるには、次のコマンドを実行します。

```
updaters add <binary file>
```

Windows プラットフォームに Change Control と Application Control をスタンドアロン構成でインストールしました。McAfee ePO でシステムを管理できますか？

| McAfee Agent がインストールされているか？ | McAfee Agent のインストールモード | 管理対象構成でシステムを使用する場合の操作 |
|---|-------------------------|---|
| はい – Change Control または Application Control より先にインストールされています。 | 管理対象 | 操作を行う必要はありません。 |
| はい – Change Control または Application Control より先にインストールされています。 | 管理対象外 | システムに Change Control または Application Control をインストールする前に、McAfee Agent を McAfee ePO サーバーに接続します。管理対象構成でシステムを直接使用できます。 |
| はい – Change Control または Application Control の後にインストールされています。 | 管理対象または管理対象外 | <p>1 次のコマンドを入力します。</p> <pre>instaConfig.exe /connect</pre> <p> <code>instaConfig.exe</code> ファイルに更新プログラム特権があるかどうか確認します。</p> <p>エージェント/サーバー間通信間隔 (ASCI) の後で McAfee Agent が Solidcore サービスに接続します。次のポリシー施行間隔で McAfee ePO に依存するすべての機能が有効になります。</p> <p>2 システムを再起動します。</p> |
| いいえ | なし | <p>1 システムに必要な McAfee Agent のバージョンをダウンロードします。KB76459 (Change Control) と KB73341 (Application Control) を参照してください。</p> <p>2 McAfee Agent を管理モードでインストールします。</p> <p>3 次のコマンドを入力します。</p> <pre>instaConfig.exe /connect</pre> <p> <code>instaConfig.exe</code> ファイルに更新プログラム特権があるかどうか確認します。</p> <p>エージェント/サーバー間通信間隔 (ASCI) の後で McAfee Agent が Solidcore サービスに接続します。次のポリシー施行間隔で McAfee ePO に依存するすべての機能が有効になります。</p> <p>4 システムを再起動します。</p> |

UNIX プラットフォームに Change Control と Application Control をスタンドアロン構成でインストールしました。McAfee ePO でシステムを管理できますか？

詳細については、KB73661 を確認してください。

Windows システムでアンインストールが不完全な場合、Solidcore クライアントを手動で削除できますか？

次の手順を実行して、Windows システムを消去してください。

- 1 無効モードに切り替えます。

```
> sadmin disable
```



ソフトウェアを無効にするには、システムを再起動する必要があります。

2 McAfee VSE アクセス保護がインストールされている場合には、これを無効にします。

3 コマンド ウィンドウを開き、次のコマンドを実行します。

```
sc stop scsrvc

sc delete scsrvc

sc delete swin
```

4 Windows エクスプローラーを開きます。

5 次のコンポーネントを削除します。

- <システム ドライブ>:\WINDOWS\system32\drivers\swin.sys または <システム ドライブ>:\WINDOWS\system32\drivers\swin1.sys
- <システム ドライブ>:\Solidcore ディレクトリ内のすべてのファイル
- <システム ドライブ>:\Program Files\McAfee\Solidcore ディレクトリ
- <システム ドライブ>:\Documents and Settings\All Users\Start Menu\Programs\McAfee\Solidifier ディレクトリ

6 {432DB9E4-6388-432F-9ADB-61E8782F4593} レジストリ キーを削除します。

詳細については、記事 [314481](#) を参照してください。

7 ソフトウェアが [プログラムの追加と削除] リストに表示されている場合、HKEY_CLASSES_ROOT\Installer\Products キーに移動し、そのソフトウェアに対応する項目を削除します。

Linux システムでアンインストールが不完全な場合、Solidcore クライアント を手動で削除できますか？

次のコマンドを実行し、Linux システムを消去してください。

```
# /etc/init.d/scsrvc stop
# chkconfig --del /etc/init.d/scsrvc
# rm -f /etc/init.d/scsrvc
# rpm -e solidcoreS3 --noscripts
# rpm -e solidcoreS3-kmod --noscripts
# rm -rf /opt/bitrock/solidcoreS3-*
# rm -rf /etc/mcafee
# rm -rf /var/log/mcafee
# rm -rf <install-dir>/mcafee/
# rm -f /usr/sbin/sadmin
```

管理者ユーザー以外のアカウントを使用して Windows プラットフォームでソフトウェアをインストールしようと試みると、エラー メッセージが表示されます。

管理者グループの管理者以外のユーザーまたは標準ユーザーのアカウントを使用してソフトウェアをインストールすると、次のエラー メッセージが表示されます。

ファイル C:\windows\Downloaded Installations\{D4BAC82D-A01B-47AC-AFC9-581EEBDD0F45} を保存できません。

ソフトウェアを正常にインストールするには、管理者権限を持つアカウントを使用してください。あるいは、ユーザーが管理者グループの通常または標準ユーザーのアカウントの場合、Windows エクスプローラーでインストーラー ファイルを右クリックして [管理者として実行] を選択してください。

Change Control または Application Control がインストールされている Linux システムでカーネルをアップグレードする方法を教えてください。

- 1 Change Control または Application Control を更新モードに切り替えます。
`sadmin begin-update`
- 2 新しいカーネルをインストールします。
- 3 更新モードを終了し、Change Control または Application Control を有効モードに切り替えます。
`sadmin end-update`
- 4 カーネルのサポート状況については、[KB82066](#) を参照してください。
- 5 次のいずれかの手順を実行します。
 - 対象のカーネルがサポートされている場合、新しいカーネルで起動してソフトウェアをアップグレードします。
 - 対象のカーネルがサポートされていない場合には、テストベッドでビルドを作成し、このビルドを本稼働環境のエンドポイントに手動で配備します。
 - 1 テストベッドが必要な前提条件を満たしていることを確認してください。詳細については、『非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する』を参照してください。



対象のカーネルが非対応で、PER でサポートを依頼している場合には、新しいカーネルで起動する前にソフトウェアをアップグレードします。

- 2 次のいずれかのタスクを実行します。
 - テストベッドに Change Control または Application Control がすでにインストールされている場合には、新しいカーネルで起動してソフトウェアをアップグレードします。
 - テストベッドに Change Control または Application Control がインストールされていない場合には、『非対応の Linux カーネル用にビルドを作成する』の手順に従ってテストベッドにソフトウェアをインストールします。
- 3 エンドポイントに `/opt/solidcore` ディレクトリを作成します。
- 4 作成したビルドをテストベッドの `<インストール ディレクトリ>/dks` ディレクトリから取得し、エンドポイントの `/opt/solidcore` ディレクトリに配置します。システム管理者に連絡して、作成したビルドをエンドポイントに配備します。
- 5 新しいカーネルで起動し、ソフトウェアをアップグレードします。Change Control または Application Control の実行モードに関係なく、ソフトウェアが新しいカーネルを自動的に検出します。

Change Control または Application Control をカーネル 2.6.32-279.EL6.x86_64 にインストールしています。2.6.32-279.1.1.EL6.x86_64、2.6.32-279.2.1.EL6.x86_64 または類似するカーネルにアップグレードした場合、既存の環境は正常に動作しますか？

カーネル間 (2.6.32-279.1.1.EL6.x86_64 と 2.6.32-279.2.1.EL6.x86_64) の相違はほとんどないように見えますが、インストールされているカーネルと 2.6.32-279.1.1.EL6.x86_64 は異なります。カーネルが異なるため、以下のワークフローに従ってカーネルをアップグレードする必要があります。

2 つのカーネルが同一かどうか確認するため、両方のカーネルで `uname -r` を実行して出力を確認します。両方のコマンドの出力が一致すれば、カーネルは同一です。SuSE 11 で許容可能な例外が発生します。たとえば、カーネル 3.0.80-0.7.1 がインストールされている場合、`uname -r` コマンドの出力は 3.0.80-0.7 になります。

Change Control または Application Control をインストールしましたが、Linux システムを有効モードに切り替えることができません。Linux システムを無効モードから有効モードまたは更新モードにも切り替えることができません。何が原因ですか？

対象のカーネルがサポートされていない場合、インストールされているカーネルに必要なビルドが自動的に作成されます (すべての前提条件を満たしている場合)。インストールが完了すると、正常性チェックが実行され、正常にインストールされているかどうか確認されます。正常性チェックに失敗すると、エンドポイントを有効モードに設定できない場合があります。

`/usr/local/mcafee/solidcore/sanity` ディレクトリに保存された RESULTS ファイルのコンテンツを表示し、正常性チェックの結果を確認してください。正常性チェックの結果が失敗の場合には、McAfee サポートに連絡してください。

Ubuntu プラットフォームで対象カーネル用にカーネル モジュールを作成しようとした。テストベッドの前提条件をすべて満たしていますが、対象カーネル用のビルドを作成できません。

Ubuntu プラットフォームで 3.5.x 以降のカーネルのカーネル モジュールを作成する前に、カーネルのソース パッケージをインストールする必要があります。 `/usr/src` ディレクトリにあるカーネル ソース パッケージのフォルダ名を確認します。フォルダ名が `linux-lts-<release-name>-<kernel x.x.x>` の形式になっていることを確認します。

たとえば、3.8.0-41-generic カーネルを実行している場合、ディレクトリは `/usr/src/linux-lts-raring-3.8.0` になります。同様に、カーネルが 3.5.0-23-generic の場合、ディレクトリは `/usr/src/linux-lts-quantal-3.5.0` になります。

索引

A

AIX プラットフォーム

- サイレントモードでのアップグレード 22
- サイレントモードでのアンインストール 27
- サイレントモードでのインストール 14
- 対話モードでのアップグレード 19
- 対話モードでのアンインストール 26
- 対話モードでのインストール 10

Application Control

- アップグレード 17
- アップグレードの確認 24
- アンインストール 25
- インストール 7
- 確認、インストール 14

C

Change Control

- アップグレード 17
- アップグレードの確認 24
- アンインストール 25
- インストール 7
- 確認、インストール 14

L

Linux プラットフォーム

- アップグレード、サイレントモード 21
- インストール、サイレントモード 12
- インストール ワークフロー 29
- サイレントモードでのアンインストール 27

Linux への配備シナリオ 29

M

McAfee ServicePortal、アクセス 6

S

ServicePortal、製品マニュアルの検索 6

Solidcore クライアント

- アップグレード、サイレントモード 21
- アップグレードの確認 24
- インストール、サイレントモード 12
- 確認、アップグレードのガイドライン 7, 17

Solidcore クライアント (続き)

- 確認、インストール 14
- サイレントモードでのアップグレード 20, 22
- サイレントモードでのアンインストール 26, 27
- サイレントモードでのインストール 11, 12, 14
- 対話モードでのアップグレード 18, 19
- 対話モードでのアンインストール 25, 26
- 対話モードでのインストール 9, 10
- パッケージのダウンロード 8

W

Windows プラットフォーム

- インストール、対話モード 9
- サイレントモードでのアップグレード 20
- サイレントモードでのアンインストール 27
- サイレントモードでのインストール 12
- 対話モードでのアップグレード 18
- 対話モードでのアンインストール 25

あ

アップグレード

- AIX プラットフォーム 19, 22
- Linux プラットフォーム 21
- Windows プラットフォーム 18, 20
- 確認 24
- サイレントモード 20
- 対話モード 18
- モード 17

アンインストール

- AIX プラットフォーム 26, 27
- Linux プラットフォーム 27
- Windows プラットフォーム 25, 27
- サイレントモード 26, 27
- 対話モード 25, 26

い

インストーラー

- 確認、インストール 14
- 購入 8

インストール

- AIX プラットフォーム 10, 14

インストール (続き)

- Linux プラットフォーム [12, 29](#)
- Solidcore クライアント パッケージ [8](#)
- Windows プラットフォーム [9, 12](#)
- 確認 [14](#)
- サイレント モード [11, 12, 14](#)
- 対応プラットフォーム [7](#)
- 対話モード [9, 10](#)

か

ガイドライン

- Linux のインストール ワークフロー [29](#)
- アップグレード [17](#)
- インストール [7](#)
- ファイル名 [8](#)
- 無効にした後に再起動 [27](#)

確認

- アップグレード [24](#)
- インストール [14](#)

こ

- このガイドで使用している表記規則とアイコン [5](#)
- このガイドについて [5](#)

さ

サイレント モード

- アップグレード [17, 20](#)
- アンインストール [26](#)
- インストール [7, 11](#)

削除

- サイレント モード [26, 27](#)
- 対話モード [25, 26](#)

せ

説明

- Solidcore クライアント [8](#)
- 対応プラットフォーム、インストール [7](#)
- ライセンス キー [33](#)

前提条件

- アップグレード [17](#)
- アップグレード、Linux [21](#)
- インストール [7](#)

前提条件 (続き)

- インストール、Linux [12](#)

た

対話モード

- アップグレード [17, 18](#)
- アンインストール [25](#)
- インストール [7, 9](#)

て

- テクニカル サポート、製品情報の検索 [6](#)

と

ドキュメント

- このガイドの対象読者 [5](#)
- 表記規則とアイコン [5](#)

ふ

プラットフォーム

- AIX [10, 14, 19, 22, 26, 27](#)
- Linux [12, 21, 27, 29](#)
- Windows [9, 12, 18, 20, 25, 27](#)

ま

マニュアル

- 製品固有、検索 [6](#)

も

モード

- サイレント [7, 17](#)
- 対話 [7, 17](#)

よ

要件

- パス [17](#)
- プラットフォーム固有 [7](#)
- モード [17](#)
- よくある質問 [33](#)

ら

- ライセンス キー、ダウンロード [7](#)

